

特定非営利活動法人 鳴子の米プロジェクト主催



「にっぽん・食の哲学塾 2015 第二回鳴子温泉郷編」

～ 徹底討論!! つながろう 食・農・温泉 観光の未来へ～

ひとりひとりが考え、行動できるよう、みんなで日本の食と農、地域を考える「にっぽん・食の哲学塾」、今年度の2回目は鳴子温泉郷から開講します。

宮城県・鳴子温泉では、地域の力で農業を支えようと、農家・旅館・お菓子屋・器職人などが協力し合い、鳴子の米プロジェクトの取組みがスタート、新品種の米「ゆきむすび」が生まれ、10年目となります。地域の豊かさとは何かを実践の中で追いつけています。

これまでの10年の中で、地域の中で取り戻したつながり、農と食を支える新たなつながり、ゆきむすびを通じて、人と人が結ばれてきました。

ゆきむすびは、地域外からも予約され一般の方の他、伝統の食事処や弁当屋、東京のおむすびやでも大事な米として使われています。できれば、鳴子温泉郷を訪れる旅人にゆきむすびをはじめとした地元の鳴子ならではの多様なごはんや食を提供し、温泉の魅力に負けないような食の魅力が上げられたらと考えます。

講師陣には、結城登美雄塾長をはじめ、鳴子温泉を知り尽くした宮城大学の宮原育子教授も参戦し、徹底討論を行います。今後の10年を見据え、地域の食からこれからの観光への行動を考える場にします、ぜひ、ご参加ください。



☆主 催：特定非営利活動法人 鳴子の米プロジェクト

共 催：鳴子ツーリズム研究会

☆日 時 平成27年3月1日(日) 11時～15時

☆会 場 宮城県大崎市鳴子公民館 (JR鳴子御殿湯駅前)

☆内 容 第1部 11時～12時30分「講演」

「旅の楽しみは、食にあり」

講師 宮城大学事業構想学部 教授 宮原育子氏

「鳴子の米から鳴子のごはんへ」

講師 塾長 民俗研究家 結城登美雄氏

昼 食 ゆきむすびのおむすび etc.

第2部 13時～15時 徹底討論「食・農・温泉 観光の未来」

コーディネーター：結城塾長，コメンテーター：宮原教授，発言者：地元

☆情報提供：(一社)農文協季刊誌『うかたま』編集長 中田めぐみ氏

☆定員・対象 食や農，観光，地域づくりに関心のある方ならどなたでも。

60名(先着順)

☆参加費 千円(昼食・資料代)

☆参加申込み 問合せ先に、氏名・住所(都道府県・市町村)・所属・電話番号・参加内容を平成27年2月25日(水)までに、FAX・メール・電話等でお申込みください。

☆お問合せ先 「特定非営利活動法人鳴子の米プロジェクト」事務局(平日9時～16時)

電話0229-29-9436、FAX0229-29-9437

e-mail: komepro181@yahoo.co.jp

【講師プロフィール】

☆「にっぽん・食の哲学塾」塾長 民俗研究家 結城 登美雄（ゆうき とみお）氏



山形県生まれ。山形大学卒業後、広告デザイン業界に入る。東北地方を中心に約600の農山村集落を訪ね歩き、「地元学」を提唱・実践。2004年、文部科学省芸術選奨受賞。宮城教育大学非常勤講師。地元学の思想と手法で、食の文化祭、なんでもや、共同店、鳴子の米プロジェクトなど、全国農山村の地域再生への多様な実践プロデュースに関わる。著書に「山に暮らす海に生きる 東北むら紀行」（無明舎出版）、「東北を歩く 小さな村の希望を旅する」（新宿書房）、「地元学からの出発」（農文協）

☆宮城大学事業構想学部 教授 宮原 育子（みやはら いくこ）氏

東京都生まれ。旅行会社勤務などを経て、東京大学大学院理学系研究科地理学専攻博士課程修了。1998年宮城大学助教授、2007年から現職。宮城大学地域連携センター副センター長も務める。専門は地域交流事業、地域資源論。山形県高畠町在住。



(情報提供)

☆(一社)農山漁村文化協会 季刊誌「うかたま」 編集長 中田 めぐみ（なかた めぐみ）氏



長野県生まれ。女子栄養大学卒業。行事食や郷土料理への関心から、『日本の食生活全集』の出版元である農山漁村文化協会に入会。農家への営業、食に関する映像制作などを経て「うかたま」編集部に入社。取材で各地の料理の作り手を訪ねる。こけしと温泉とお酒が好きで鳴子にもたびたび足を運んでいる。

